

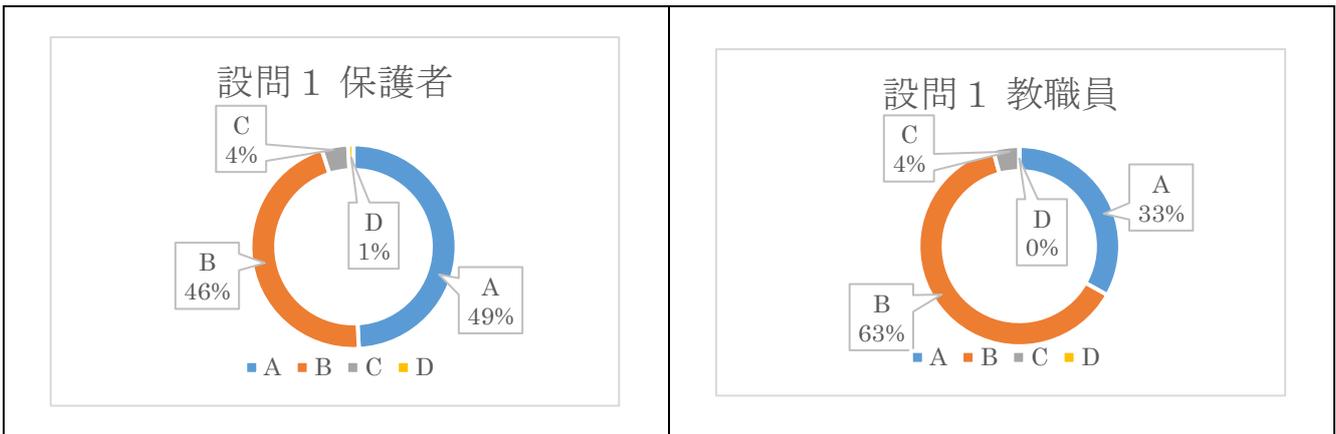
1 回収率（※ 人数は児童生徒数）

|     | 小学部 |    |    | 中学部 |    |    | 高等部 |    |    | 分教室 |    |    | 寄宿舎 |    |    | 大学部 |    |   | 合計  |     |    |
|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|---|-----|-----|----|
|     | 人数  | 提出 | %  | 人数  | 提出 | % | 人数  | 提出  | %  |
| 保護者 | 106 | 90 | 85 | 88  | 72 | 82 | 84  | 66 | 79 | 21  | 12 | 57 | 26  | 24 | 92 |     |    |   | 299 | 240 | 80 |
| 教職員 |     |    |    |     |    |    |     |    |    |     |    |    |     |    |    |     |    |   | 179 | 166 | 93 |

評価基準 A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

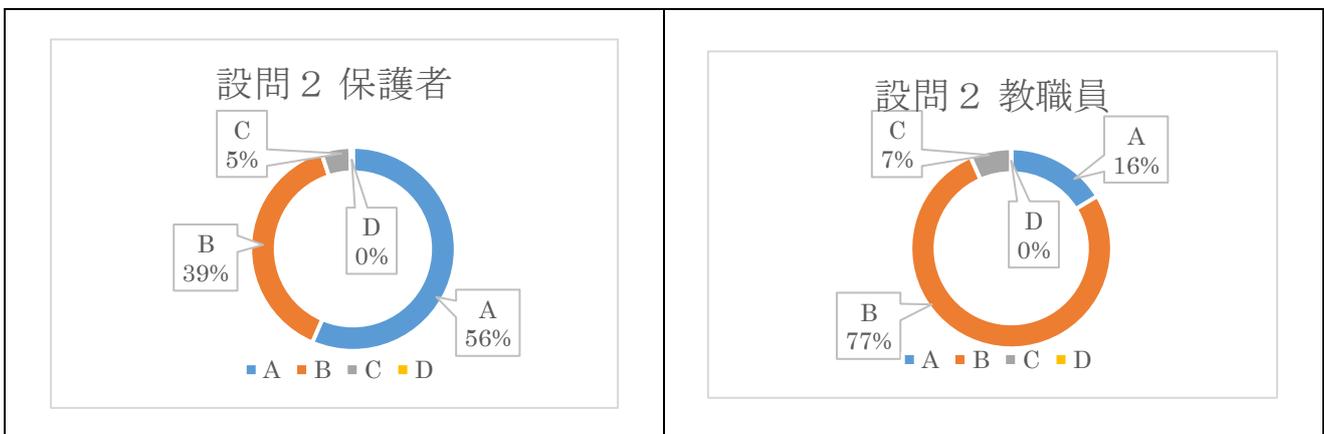
2 項目ごとの保護者・教職員間比較（※ 設問は保護者アンケートの内容）

設問1 職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、特別支援教育の専門性を活かした教育を行おうと努力していると思いますか。



教職員・保護者共にAとBを合わせた評価が今年度も90%を超えましたが、経年で比較すると、保護者のAの評価は、55%（1年）⇒53%（2年）⇒49%（3年）と減少傾向にあります。保護者の自由記述には「学校で何をしているか分からない」といった意見がいくつか挙がっていました。日頃の教育活動について、どのようなことをねらい、どのような支援をするのか等、保護者と情報共有する機会を大切にしていきます。今後もコロナ禍での学校行事の実施が予想されるため、参観日週間の設定、オンラインによる参観の実施、ICT機器による情報共有のあり方等についても検討してまいります。

設問2 学校は、個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。

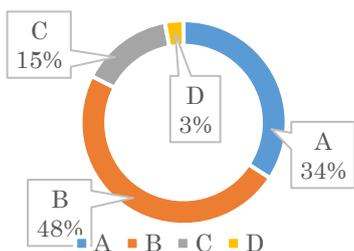


保護者の回答は、AとBを合わせた評価が95%と高い評価でした。個別の指導計画が、児童生徒理解や指導支援について保護者と学校で共有するツールとして位置づいていると思われます。一方、教職員はAの評価が保護者に比べて低い評価となっています。日々の指導における個別の指導計画の活用について、「いつ」「どのような場面」で活用できるのかを各部で検討し活用を進めてまいります。

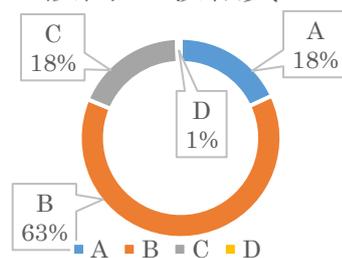
設問3 学校は、前年度の学級や学部からの引き継ぎが適切になされ、連携した指導、支援を行って

と思いますか。

設問 3 保護者



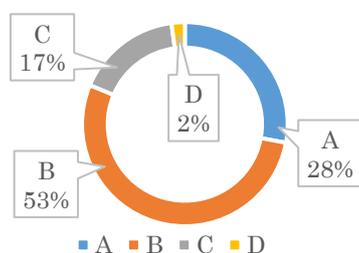
設問 3 教職員



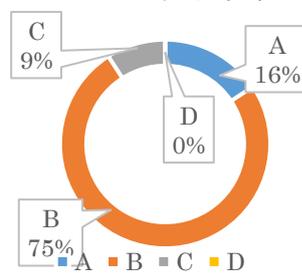
保護者・教職員の回答は、ともに昨年度に比べるとやや評価が下がっています。保護者の自由記述に「担任が変わる度に子どもの特性について一から説明が必要」「学部が変わったときに、引き継ぎが不十分である」等、例年と似た記述が複数挙がっていました。学級、学年、学部の引き継ぎに課題があると思われる。引き継ぎの課題を明確にするとともに、引き継ぎのシステム（引き継ぎ方、回数、時間、内容等）の見直しや整備を進めてまいります。

設問 4 学校は、家庭・地域・関係機関（市町村の福祉関係機関、支援センター、ハローワーク、医療機関、児童相談所等）と有意義な連携を行っていると思いますか。

設問 4 保護者

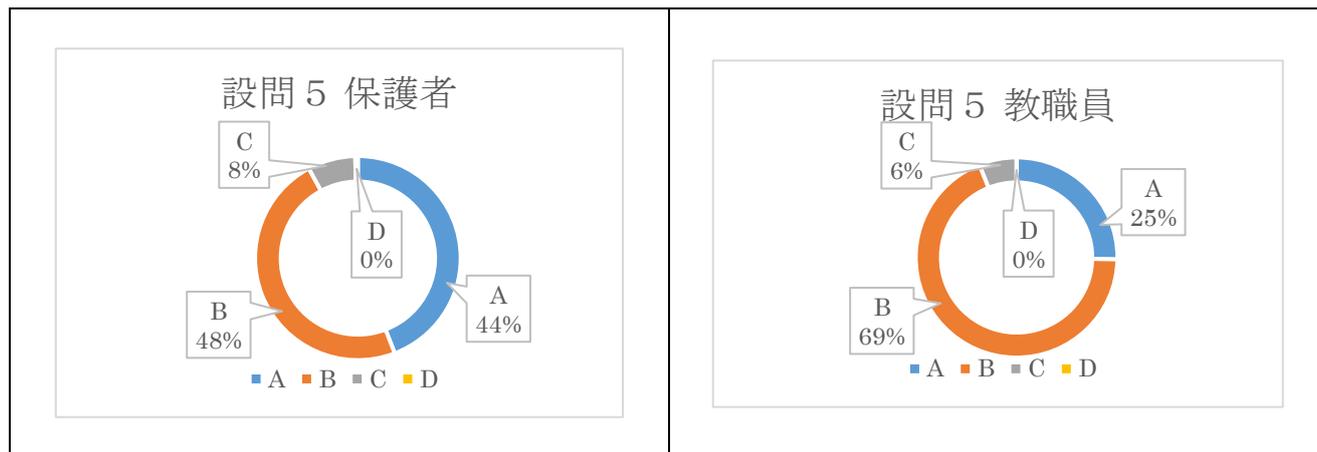


設問 4 教職員



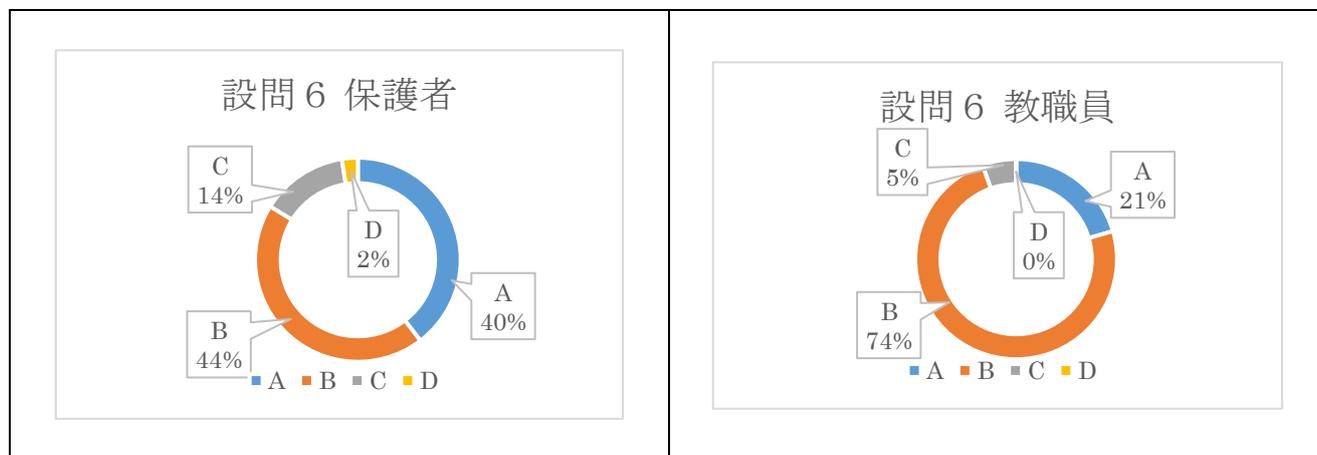
保護者の回答は、他の質問項目に比べてC評価が高い傾向がありました。自由記述では「コロナ禍になってから連携がとれなくなっている」「市町村の福祉関係の方と会う機会がない」等の意見が挙がっていました。コロナ禍の影響で、例年実施していた支援会議等が中止されている影響もあると思われしますが、その中でも連携を図る方法を探っていく必要があると考えます。具体的な関係機関を紹介する等の情報共有、一人ひとりに応じた必要な関係機関との具体的な連携等、計画的に進めてまいります。

設問5 児童生徒は、学校生活を通してその子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関する事等）が育っていると思いますか。



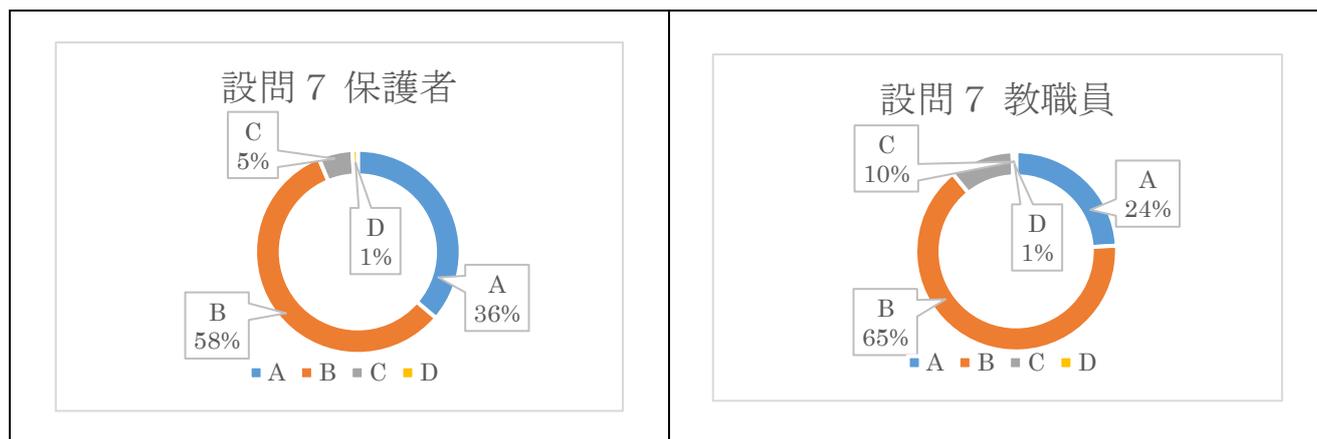
教職員、保護者の回答は、AとBを合わせた評価が今年も90%を超えました。しかし、保護者の自由記述では、「先生方からの日常的なあいさつが少ない」といった声も挙がっていました。日頃から進んで挨拶をしたり、挨拶を返したりすることを職員が率先して行うことでモデルを示しながら子どもたちに指導していきます。身辺自立については、個別の指導計画で実態と支援の方向を明確にし、学級担任間及び保護者と目標や支援策を共有して指導を進めてまいります。また「性に関する指導」への要望もありました。一人ひとりの心と体の状態を把握し、個に応じた指導を大切に進めてまいります。

設問6 学校や家庭における悩みなどを気軽に相談できる体制が整っていると思いますか。



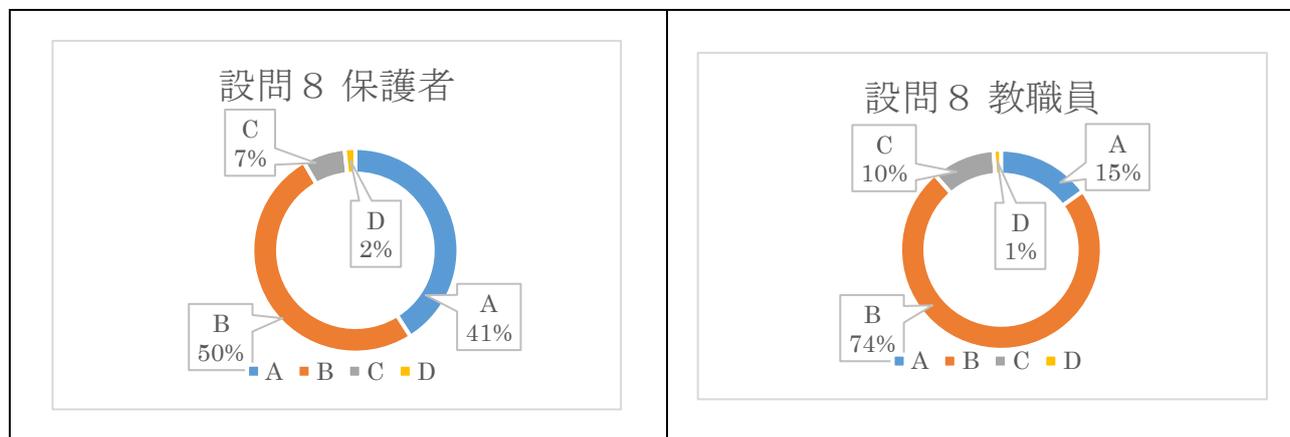
保護者の回答は、AとBを合わせた評価が3年間継続して改善傾向にありました。一方で、保護者の自由記述では、「相談しても謝罪で終わってしまい、相談をためらってしまう」「専門的な内容をどこに相談すればよいか分からない」といった声も挙がっていました。学校が保護者と共に支援策を検討したり、専門的なアドバイスをしたりすることが求められていると考えます。教職員の評価は、Aの評価が例年に比べて低くなりました。懇談会、参観日等で直接会って話す機会は減っていますが、連絡帳や電話、対面等の様々な方法を通じて日常的なやりとりを継続し、保護者が相談しやすい関係づくりをさらに進めてまいります。

設問7 交流や宿泊行事、校外学習は、児童生徒の実施にあったものになっていると思いますか。



教職員、保護者の回答は、AとBを合わせた評価が今年度も90%を超えました。新型コロナウイルス感染症警戒レベルの変動により、各行事や交流が中止になる場合がありますでしたが、感染予防対策を講じたり、オンラインを活用する等の工夫をしたりして実施できるものは可能な限り実施してまいりました。保護者の自由記述では「コロナ禍で校外学習や参観日、交流等の行事が減って残念」との意見が複数寄せられました。今年度実施した各行事や交流の反省をもとに新しい生活様式に則った各種行事を計画したり、児童生徒の興味関心にもとづいた学年及び学級ならではの校外学習を計画したり、警戒レベルの変動に応じて安全に各種行事が実施できるように工夫してまいります。

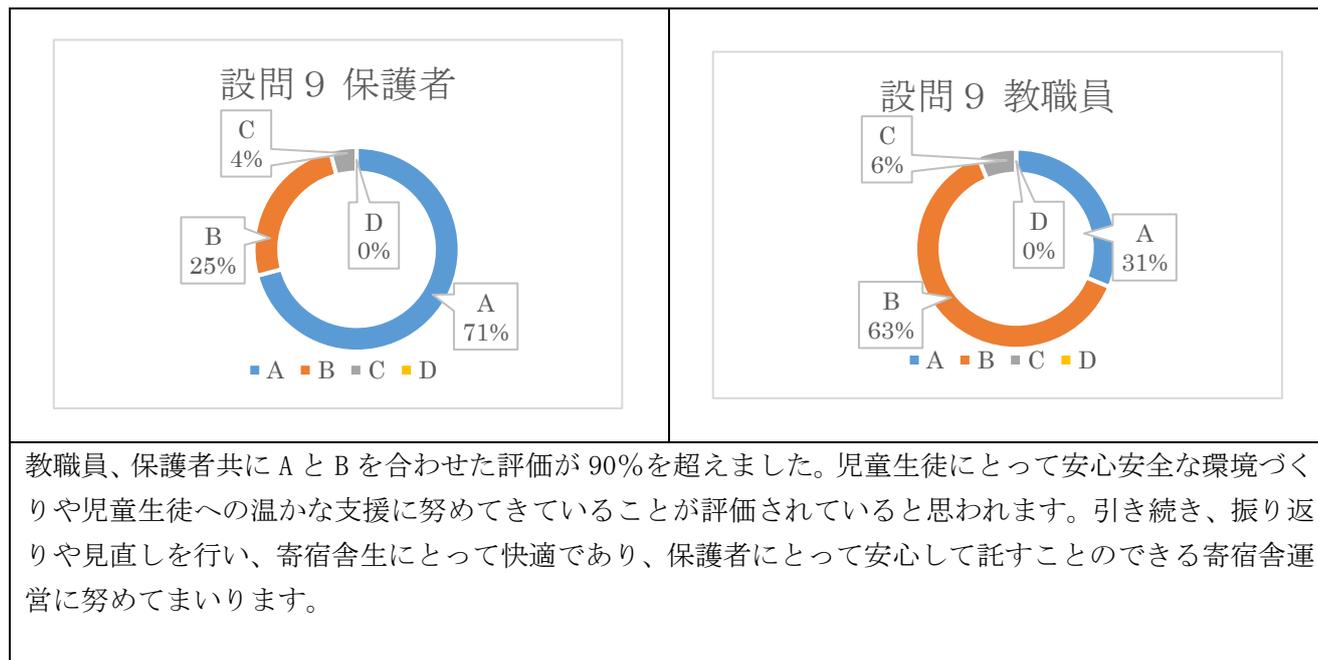
設問8 学習環境（学校の施設・設備、教室環境など）は、児童生徒にとって生活しやすいものになっていると思いますか。



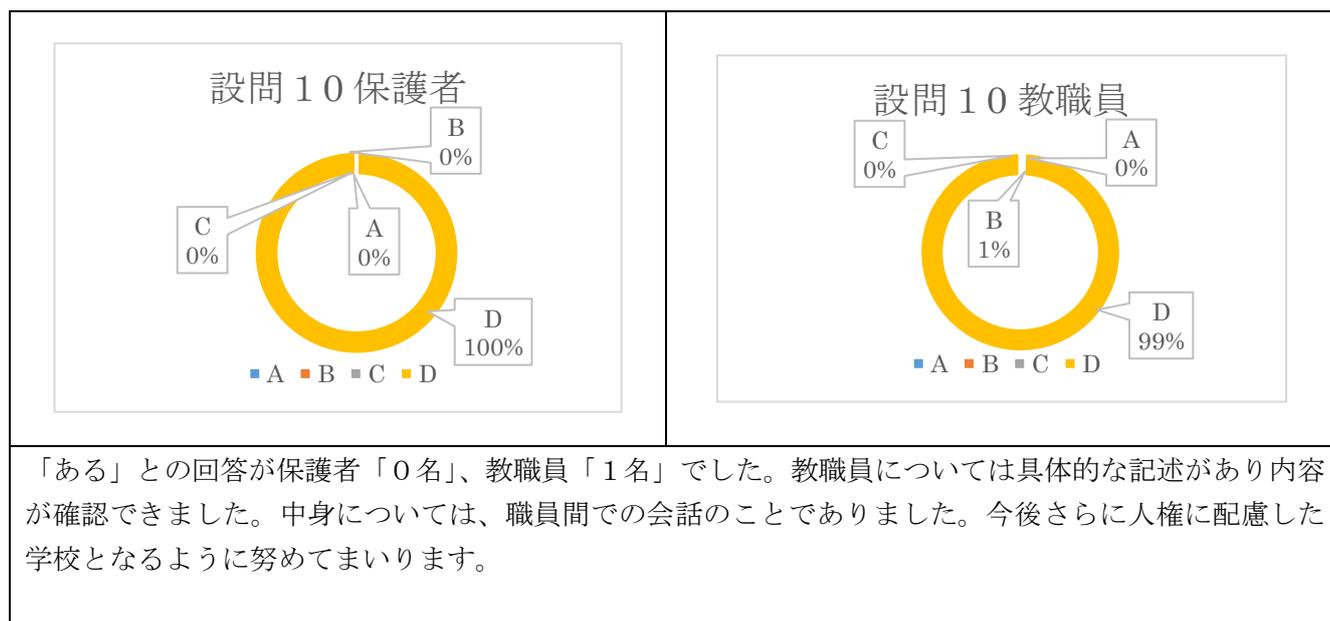
保護者の回答は、AとBを合わせた評価が90%でした。県の学習環境改善事業により、専門的な教材教具の充実がされてきています。また、国からの新型コロナウイルス感染症対策事業等により、コロナ禍においても感染対策をとりながら活動できるような教材教具もそろってきています。一方で、保護者の自由記述では「教室が殺風景である」「教室やホールが汚い」「教室と廊下の温度差があり、体温調整の難しい子どもたちにとっては好ましくない」「エアコンを効果的に使って教室内を過ごしやすくしてほしい」といった声が挙がっていました。

学習環境については、子どもたちの生活環境としてふさわしい環境となるように改善を進めてまいります。冷暖房については、児童生徒の教室は健康面に配慮して早めに対応していますが、今後も過ごしやすい環境となるようにこまめに冷暖房の調整をするようにします。廊下等は、外気が直接入ってくる場所が多いため、全て冷暖房で対応するのは難しいため、衣服による調節も継続して一人一人に対応してまいります。

設問9 寄宿舎では、舎生にとって安心安全な環境を整えたり、温かい支援が行われたりしていると思いますか（現舎生保護者）。



設問10 今年度、あなたのお子さんが体罰をされたということを見たり聞いたりしたことはありますか。



設問1 寄宿舍の職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、専門知識を活かした指導を行おうと努力していると思いますか。

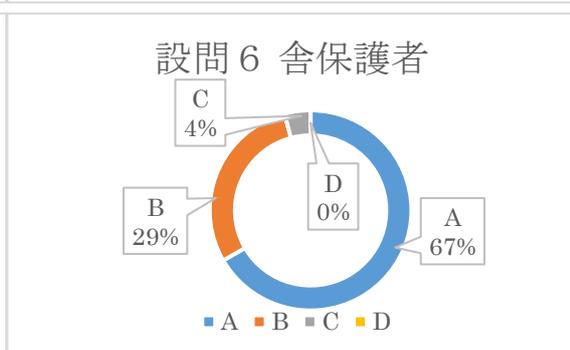
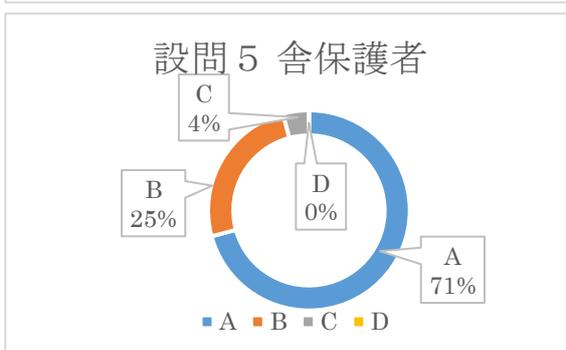
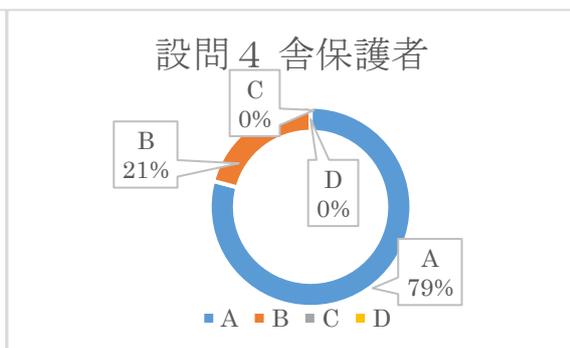
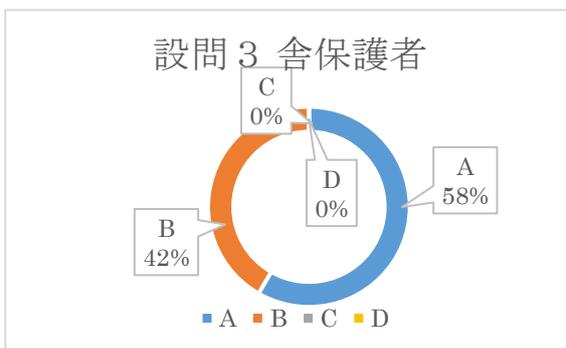
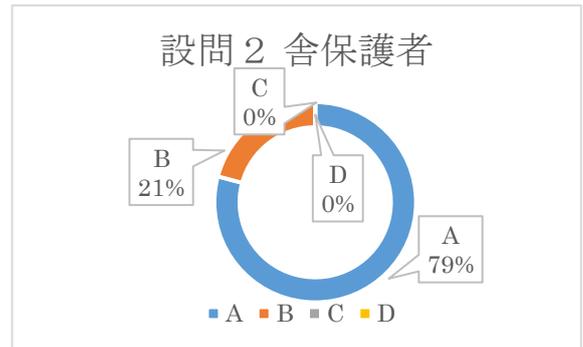
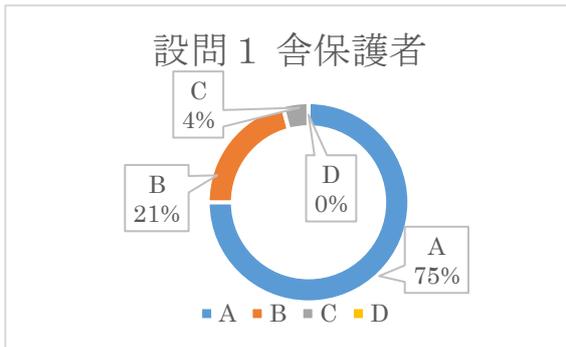
設問2 寄宿舍では個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。

設問3 日々の連絡や個別懇談、参観等を通じて、支援の共通理解がもてていると思いますか。

設問4 寄宿舍での生活を通して、その子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関すること等）が育っていると思いますか。

設問5 寄宿舍の施設・設備・舎室等は、児童生徒にとって安心安全で生活しやすいものになっていると思いますか。

設問6 寄宿舍では、プライバシーに配慮した同性介助の徹底がなされていると思いますか。



#### 【考察】

どの設問においてもA「そう思う」、B「だいたいそう思う」の合計が96~100%でした。その中で、「設問3」においては合計で100%であるものの、Bの比率が高めでした。コロナ禍において、自由に学校や舎に入出入りできない制約があったり、参観する機会が減ってきたりしているため、家庭と保護者との連絡や支援に関する共通理解に不安が生じていると思われる。

また、C「あまりそう思わない」が数%ありました。具体的な記述はありませんでしたが、今後も専門性を高めることや安心安全な環境で子どもたちの人権とプライバシーに配慮した温かな支援を目指してまいります。

### 3年間の比較

